

富田市長水道事業ビジョン実現方策の達成状況について

- a 実施
- b 検討
- c 未実施
- コロナにより未実施

- S 越えて達成
- A 達成
- B 概ね達成
- C 未達成

資料4

基本施策	実施方策	実施状況 (R2)	達成状況 (R2)	達成状況の推移				
				H29	H30	R1		
安全・安心な水道	水質管理及び検査のレベルアップ	a 水安全計画を全般的に見直し。	A	すべての項目について達成した。	A	A	A	
		a 計画どおり実施した。						
		a 物活性汚染入設備の更新について検討し、R3実施設計、R4・R5工事予定。						
		a 水質検査計画の考え方に基づき、計画を見直した。						
		a 精度管理の向上に努めた。						
	a 水質異常時の連絡体制に基づき、円滑に実施できた。							
	配水管における残留塩素濃度の改善	a 残留塩素濃度の管理について、送配水管理センター及び東部配水池の送配水残留塩素濃度が目標値になるように送配水管理センターでの追進を調整した。	A	計画どおり進めることができた。	A	A	A	
		a 公園ポンプ場の受水槽に残留塩素濃度を上げるデモ装置を設置し、モニタリングした。また、管末2箇所については継続して検水を行った。						
	水道水の安全性に関する情報公開	a 更新時に合わせ銀橋配水池の水質モニター（濁度・色度・残留塩素）の設置を行った。	A	ウェブサイトで、市の広報紙などで水道に関する情報等のお知らせを行ってきた。また、「上下水道だより」を市内全戸配布やイベントにも参加し水道についてPRを行った。	B	A	B	B
		a 「上下水道だより」配布、ウェブサイト、市の広報誌などを通じて情報発信を行った。イベント等は新型コロナウイルスの感染拡大防止のためできなかった。						
給水装置の衛生面の確保	a 今年度は貯水槽水道の給水申請が1件あり、環境衛生課（旧日野環境課）へ情報提供を行った。	B	直結増圧給水の導入に拡大していくよう指導した。	B	B	B	B	
	a 申請、施工に指導し水質事故防止に努めた。							
鉛製給水管の解消	b 市内給水管に関しては、雇用促進住宅については周知し要請した。（給水管引込については残り1件）	B	引込管についてはほぼ解消でき、管内給水管についても周知取組要請を行った。	C	C	C	B	
	a							
基礎施設の耐震化	b 二市協議会及び二市協働会でも協議しており、日野浄水場内他の工事との調整により令和4年度からの実施は厳しいが、引き続き二市で効率的な工費を協議していく。	B	平成30年度で水処理施設は廃止となったので、引き続き甲田浄水場内で有効な最適配置を先に検討する。	B	①、③については目標を達成できた。	B	B	
	c							
	a							
管路の更新・耐震化	b 管路の更新・耐震化工事については、概ね計画どおり実施できたがR2 常野町水道管敷設替え工事については、営業店舗及び駐車場等の出入り等の調整に時間を要し、令和3年7月の完了予定となる。	B	管路の年間更新率は、目標1.7%に対し、1.13%実施した。	B	老朽管の更新については、概ね計画どおり進んだ。管路の更新・耐震化工事については、一部遅れを生じた。	B	A	
	b							
アセットマネジメントに基づいた施設の機能維持	a 元・2年度において銀橋配水池の電気設備・機械設備更新を実施した。	B	配水配水池2号池の防水工を実施した。また、これまでに実施した劣化調査結果に基づいて塗装を行い、劣化による施設の長寿命化を図る。	B	①②については計画どおり達成できた。	B	B	
	a							
	c							
	c							
応急活動体制の構築	b 危機管理マニュアルに基づいた研修・訓練の実施	B	新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、ほとんどの防災訓練は実施できなかった。大阪狭山市との緊急連絡管訓練は行った。	B	A	A	B	
	a							
	a							
	b							
資機材の備蓄と調達体制の確保	b 危機レベルの検証については、継続して行っている。	A	河内水道施設部でも調整をはかり内容をまとめる事ができなかったが、継続して協議していく。	A	A	A	A	
	a							
安定した水源の確保	a 北部配水池の水（企業団水）をエンジンポンプで金剛東配水池に送水した。また、北部配水池のエンジン及び給油装置の点検・整備をした。	A	引き続き基幹配水池における自己水、企業団水受け入れの維持ができた。	A	計画どおり進んでいる。	A	A	
	a							
緊急時における水の確保	a 非常時における水の確保として、緊急遮断弁の保守点検を行い維持管理に努めた。	A	緊急連絡管の増設については、堺市及び羽曳野市と協議を行っており、実施に向けて今後も協議を進めていく。あしん給水栓の設置については、企業団と今後も協議を進めていく。	A	計画通り進めることができた。	A	A	
	a							
災害対策に関する広報の充実	b イベントや市の広報、「上下水道だより」等において情報提供をおこなった。	B	ウェブ広報において情報を提供できた。イベント等は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、できなかった。	B	A	A	A	
	a							
持続可能な水道	効率的な施設の配置と再構築	a 送配水管理センターの送配水設備止に向けて検討した。	B	低圧配水池は北部配水池の更新時期に、善忠配水池はPL敷地内の送水管敷設後に廃止するよう検討した。北部配水池の運用方法検討委託業務を発注し、一定の方針は出すことができた。（4号池の廃止業者と進んでいる）	B	①～④については計画どおり達成できた。	B	
		a						
		a						
		a						
		c						
	財源の確保	a 経常収支比率、料金収納率については、現状で達成できる見込み。（決算処理が完了していないため未確定）	A	電気、通信などの契約の見直しや、コスト面でも便れる機器の導入などをすすめた。	A	③については小水力発電による売電や公用車へのマグネット広告事業を開始している。	A	A
		a						
	業務の改善	a 重複業務については調整し、一層の業務合理化を行えるよう、業務編成について係間協議した。	B	NTT西日本と協議し、具体的なICT活用については結論は出ていないが、今後も継続して協議を進めていく。増設施設等で機器情報が得られるよう水道施設設備管理システムと連動できるタブレット端末活用を検討した。	B	概ね達成できた。	B	B
		a						
		b						
相識力・技術力の強化	c 現状では配置できていない。	B	研修や技術を継承していくには、バランスのとれた職員の配置が必要であると考えている。また、今後はベテラン職員の保有する知識を伝承するしくみを構築する必要があるが、ベテラン職員の指導力も必要である。	B	B	B	B	
	a							
広域化の推進	b 大阪府、企業団及び近隣市町村と検討・協議を行っているが、まだ具体的な結論は出せない状態である。令和2年度に企業団の最適配置実施案を行うよう進めている。	B	河内10市町村とは広域的な連携を広域化検討会議では行えた。今後も施設部会等での提案を行い、協議を進めていく。	B	①については令和3年度中に方向性を定める予定である。	B	B	
	b							
民間活用の導入	a 運転管理業務及び窓口業務を中心に、更なる委託内容の拡充の可否を検討している。	B	日野浄水場の電気設備更新工事についてDBを実施しR3年度完成予定。また、令和3年度は管路更新の簡易DBの発注を行っていく。	B	多様な官民連携手法の調査・検討、委託業務内容について検証・見直しを行った。	B	A	
	a							
市民との双方向コミュニケーションの確立	b 広報誌やウェブサイト等で情報発信に努めた。また、上下水道だよりの発行をした。	B	アンケート調査を行っていたが、今年度は実施できなかった。	B	①②については、計画どおり達成できた。	B	B	
	a							
省エネルギー対策の推進	a 配水量1m ³ 当りの電力消費量(kWh/m ³)において、数値目標(H38)0.21に対し、実績値(H29)0.35から実績値(H30)0.28と下がった。配水池の見直しにより、聖ヶ丘加圧ポンプ場を廃止した。	A	上原配水池更新工事に伴い、外灯をLED照明に交換した。	A	全般的に達成できた。	B	A	
	a							
	a							
	a							